

生涯学習に関するアンケート結果をお知らせします

詳細は市のホームページ・文化センター・地区公民館・市政情報コーナーで閲覧できます。

●概要
●目的 公民館講座など生涯学習に関する事業を推進する資料とするため

●実施時期 平成20年10月
●調査対象 無作為に抽出した市内在住の2000人
●回答人数 967人

●回収率 48.4%
問い合わせ▼文化センター
(☎8761515)



■アンケート結果

- 問1 この1年くらいの間に生涯学習をしたことがありますか
問2 したことのある生涯学習の内容は何ですか
問3 生涯学習をするようになった理由は何ですか
問4 どのような方法で生涯学習をしていますか
問5 生涯学習をしていないのはどうしてですか

問1 回答者数 961人

したことがある	40.7%
していない	56.7%
わからない	2.6%

※「今後・今後ともしたいと思いますか」との問いには、81.3%の人が「したいと思う」、「機会があればしてみたい」と答えています。

問2 回答者数 391人
(複数回答可、上位4項目)

健康づくり・スポーツ(健康法、医学、美容、栄養、水泳など)	48.6%
趣味的なもの(音楽、美術、生け花、舞踊、書道など)	40.2%
職業上必要な知識・技能(資格取得など)の習得	15.9%
ボランティア活動や活動に必要な知識・技能の習得	14.1%

問3 回答者数 391人
(複数回答可、上位4項目)

健康・体力づくりのため	48.6%
趣味を豊かにするため	47.3%
親睦を深めたり、友人を得たりするため	39.6%
自由時間を有効に活用するため	34.5%

※そのほか「社会の役に立ちたいため」11.2%、「ボランティア活動に生かすため」7.9%など。

問4 回答者数 391人
(複数回答可、上位4項目)

自主的なグループ・サークル活動	42.2%
民間の講座・教室・習い事など	33.8%
公民館が行う講座や教室	32.2%
本を購入しての学習	20.2%

問5 回答者数 545人
(複数回答可、上位4項目)

仕事や家事が忙しくて時間がない	50.1%
きっかけがつかめない	30.8%
講座や教室などが行われる時期・時間が合わない	20.4%
費用がかかる	19.4%



シルバーカレッジ

レンタサイクルのサイクルポートを増設します

2月1日(月)より三河安城駅(MAパーク)と新安城駅にサイクルポートを開設します。
※利用は当日のみ。利用時間



内であれば、左表のどのポートでも返却可能。
※年末・年始は、全てのポートが休みです。



サイクルポート名	貸し出し返却場所	利用時間	休日
三河安城駅	MAパーク管理事務所	午前9時～午後5時	無休
新安城駅	新安城駅南駐輪場受付	午前9時～午後3時30分	
安城駅	安城駅南駐輪場受付	午前9時～午後7時	
安城市役所	本庁舎案内		
桜井公民館	公民館事務所	午前9時～午後5時	(月)、(祝)の翌日
中部公民館	公民館事務所		
デンパーク	正面ゲート受付	午前9時30分～午後4時30分	(火)
クリエーションプラザ	サルビアスタンプ会事務所	午前10時～午後4時	(日)、(祝)
堀内公園	公園管理事務所	午前9時～午後5時	(月)、(祝)の翌日
問い合わせ▶都市計画課(☎712243)			

デンパーク「フラワーフェスティバル」イベント参加者募集

- とき 3月20日(祝)～22日(月)・28日(土)・29日(日)・4月4日(土)・5日(日)・11日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日)・4月29日(祝)～5月6日(休)
※1回30分のステージを1・2回。
●ところ デンパークフロールプレイス
●内容 アンサンブル、ヒーリング音楽、コーラス、ポップスなどデンパークのイメージに合うもの。大音量での激しい演奏などは不可
●申し込み 代表者の住所・氏名・電話(フックス番号、メールアドレス、簡単なプロフィール、参加希望日(必ず記入、参加可能日が複数あればそれも記入)を記入し、演奏内容のわかるMD、CD、ビデオテープなどを添えて、2月20日(金)まで(必着)にデンパーク(〒446-0004 赤松町堀1)へ

●その他 ①応募者多



問い合わせ▼デンパーク
(☎927111)



資源を回収し、その場で再利用できるものをその場で提供します。

●とき 2月4日(水)から毎月第1(水)午前10時～午後2時

●ところ 中心市街地交流広場内(旧更生病院跡地)

●回収品目 古紙(新聞、ダンボール、雑誌、本、雑がみ、牛乳パック)、びん、缶、なべ・やかなど金属類、古着(洗濯してあるもの)、乾電池、蛍光灯

●その他 ごみについての相談コーナーも開設します。

●問い合わせ 環境首都推進課(☎8712206)



エコネットあんじょう

教育センター・総合斎苑 臨時職員募集

◎教育センター相談員
(臨床心理士)

- 募集人数 1人
- 受験資格 35歳までの臨床心理士の資格を有し、1年以上の臨床実務経験のある人
- 採用期間 4月1日(水)～来年3月31日(水)
- 勤務日時 毎週(木)午前10時～午後5時
- 勤務内容 相談者のカウンセリング・プレイセラピー
- 賃金 時給2500円～3000円(実務経験年数による)、通勤割増賃金1日200円



●申し込み 2月2日(月)～16日(月)午前9時～午後5時(必着。(注)宛を除く)に申込書・履歴書・資格証のコピーを持参または郵送で市教育センター(☎76-1010/〒446-10045 横山町下毛賀知13-1)へ

※申込書は同センターで配布。

◎総合斎苑臨時職員

- 募集人数 2人
- 受験資格 58歳までの普通自動車運転免許証を持つている人
- 採用日 4月1日(水)
- 勤務日時 週3日程度の午前9時～午後4時
- 勤務内容 霊柩車の運転・窓口受付事務
- 賃金 時給1150円、通勤割増賃金1日200円
- 申し込み 2月2日(月)～20日(金)午前8時30分～午後5時15分(注)宛を除く)に申請書または履歴書を市民課(☎71-2221)へ

市農業賞受賞者決定

地域農業の発展に尽くした人などを顕彰する市農業賞の受賞者が決まりました。

(敬称略)

●農業青年奨励部門
稲垣巨樹(堀内町)



就農後、JAあいち中央青年部部長や桜井北部農用地利用改善組合委員を歴任。現在は、安城農業士会副会長を務める。

●営農部門

深津富男(東端町)



育苗供給や水稲防除請負を行い、営農の担い手として活躍。昨年はJAあいち中央営農部会長を務め、100名以上の

水稲エコファーマーを認定。本人もエコファーマー認定(水稲・大豆)を受け、環境に配慮した農業活動を展開している。

●地域づくり活動部門

安城西鹿乗工区(安城町)

慢性的な水不足の解消や、混住農地の移動集積により農地の集団化推進を図った。また、水稲の集団直播栽培により、担い手農家規模拡大と生産性の向上に努めた。



問い合わせ▼農務課
(☎71-2233)

青少年健全育成 推進大会・ 家庭教育講演会

●とき 2月14日(土)午後2時～4時

●ところ 文化センター

●定員 500人(当日先着順)

●問い合わせ 青少年健全育成推進大会↓青少年の家(☎76-3432)、家庭教育講演会↓文化センター(☎76-1515)

■第一部 青少年健全育成推進大会

●内容 他の模範となる児童生徒や、青少年健全育成に尽力している人の顕彰と、「家庭の日」啓発用ポスター入賞者の表彰式

■第二部 家庭教育講演会

●講師 木藤潮香氏(閩病日記「リットルの涙」の著者故木藤亜也氏の母)

●テーマ ひとつしかない命「リットルの涙」

朝夫が行く⑨

「つくり過ぎ」は なくせるか?

昨春秋、山崎製パン(株)安城工場を訪問しました。同工場は、地元産米粉を使った米粉パンや安城農林高等学校と共同で開発した米粉とイチジクジャムを使ったシフォンケーキ「こもっちり」など、地域との連携に積極的に取り組んでくれています。当日は、伊藤慎一工場長に、いろいろと興味深いお話をうかがうことができました。



商品の消費期限が5日以内と短いため、同社は全国各地に工場を持ち、各工場でも種類の商品を生産しています。安城工場の販売エリアは、三河地域のほかに、静岡県西部、名古屋市東部、

三重県。10のラインで600種類(一、1日に100万個!!)のパン・洋菓子・和菓子を生産しているとのこと。「パン工場って、意外と地産地消なんです」と伊藤さん。

同工場は、発酵しすぎたパン生地、パイプに残ったジャムやクリーム、規格外品などは、畜産飼料などにすべて再利用して、平成20年に「廃棄物ゼロ」を達成しているそうです。今後の課題は、毎日約1000個ずつ出る「つくり過ぎ」を減らすこと。

「つくり過ぎ」の原因は、生産の「見切り発車」にあります。これまでの慣行で、スーパーやコンビニなどの小売店からの注文の締め切りは前日午後。小売店は、ギリギリまで前日の売れ行きを確かめてから、過不足のないように翌日の品揃えをしたいのです。特にコンビニでは、棚に欲しい商品がないと、お客はほかの店に行ってしまうかねません。かといって売れ残りは出しにくい。

しかし、工場では、前日

午後の注文確定を待つてから粉を練って生地を作っているのは、翌日午前中の納品には間に合いません。そこで、過去のデータから予測して、見切り発車で生産を始めておくのだそうです。(それで「つくり過ぎ」が全体生産量の0.1%しかない)というのはスゴイことですが……)

例えば、もし消費者が品切れを我慢してくれば、小売店は前々日に注文を出せるので、工場での「つくり過ぎ」はなくなります。また、消費者が消費期限の近いものから順に買ってくれば、小売店での売れ残りは減ります。「つくり過ぎ」や「売れ残り」の処理には費用がかかりますから、これらがなくなれば、商品の価格は引き下げられる理屈になります。消費者と小売業者と生産者が話し合い、少しずつ譲り合って、せっかく作った食べ物をムダにしないようにはできないものではないでしょうか?

副市長(環境政策担当)

山田 朝夫

交通規制のお知らせ 第24回 明治用水緑道市民駅伝大会

2月8日(日)
午前9時30分～11時30分



問い合わせ▶
市体育館(☎75-3535)

